

Piano Etoile Series

“煌めく個性” ピアノ・エトワール・ シリーズ 2008

今年も「未来の巨匠」を予感させる
4人のピアニストが顔を揃えた、
ピアノ・エトワール・シリーズ。

このシリーズは、彩の国ならではの
ピアニストが「今一番弾きたい曲」での
プログラムを組む。それぞれの個性が、
まさに星のように煌めくことだろう。

文 = 真嶋雄大 (音楽評論家)

先般行われた「ピアニスト100」シリーズは、大好評の内にその幕を閉じた。10年で100人のピアニストを聴くという遠大なコンセプトもさることながら、登場したピアニストの水準が著しく高く、毎回必ず計り知れない感動を残していったからである。

その後継企画として2007年度に実施された「ピアノ・エトワール・シリーズ」には、ショパン国際ピアノ・コンクール覇者のラファウ・ブレハッチを初めとしてイリヤ・ラシュコフスキー、デイヴィッド・グレイルザンマー、そして小菅 優という綺羅星の如き気鋭の若手ピアニストたちがステージに立ち、シリーズの方向性に沿ったそれぞれの音楽を構築して著しい進境を示した。

それは同時に、突出した個性に出会う一期一会の機会であり、またピアニストの将来に時を重ねる垂涎の空間となって、煩わしい日常から心が開放されたものである。

嬉しいことに、そのシリーズが今年も予定されている。7月はコルネリア・ヘルマン、9月はアンドレイ・コロベイニコフ、12月は北村朋幹、そして来年2月にはロマン・デシャルムという、これまた錚々たる顔ぶれ。

Vol.5 コルネリア・ヘルマン

【日時】7月5日(土) 開演 14:00

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

【曲目】J. S. バッハ:バルティータ第2番 ハ短調 BWV826
シューマン:アベッグ変奏曲 作品1 メンデルスゾーン:厳格な変奏曲 作品54
ベートーヴェン:ロンド・ア・カプリッチョ ト長調 作品129「なくした小銭への怒り」
武満 徹:フォー・アウェイ
ベートーヴェン:ピアノ・ソナタ第14番 嬰ハ短調 作品27-2「月光」

【発売日】1回券・4回セット券ともに好評発売中



美しく、誠実な時間を紡ぐコルネリア・ヘルマン

まずはコルネリア・ヘルマンである。彼女の父はドイツ人チェリスト、母親は日本人ヴァイオリニストである。ということもあって、日本語は至って堪能。かつてインタビューをさせていただいた折も、それは美しい日本語で対応してくれた。

そのコルネリアの音楽には押し付けがましいところが一切ない。本当に人の心にじっくりと染み入ってくる。それはどんな気持ちのとき耳にしても、ふと聴き込んでしまうような、瑞々しい潤いと温かさ、しみじみとした慈愛に湛えられている。心静かならざるときには安らぎを与え、心曇るときには気力を取り戻し、そして

PROFILE

音楽一家に生まれ、1996年最年少でJ. S. バッハ国際コンクール(ライブツィヒ)で最高位。99年、ザルツブルク・モーツァルト国際コンクールで特別賞受賞。2001年にはヒルデガルド・マッシュマン財団から大賞(若い音楽家への奨学金)が贈られた。これまでにザルツブルク・モーツァルトテウム管弦楽団、ウィーン室内管弦楽団、NHK交響楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団、読売日本交響楽団などのオーケストラと、また、ノリントン、マリナー、スダーン、アルミンク、ボッセなどの指揮者と共演。